

湖水浄化活動 第3報 H25年9月16日

1. ナノバブルフロート運転開始：5月に公開したナノバブラーフロートを、姥田川に面した瀬田漕艇クラブ前に設置し、6月18日から連続運転を開始した。現場は水深約1mでヘドロが70cmも堆積している。この地域は新興住宅地として造成されているが、流れが滞留しているため、異臭があり、そのため大津市はその上流部の堆積ヘドロを回収し環境改善の土木工事を実施するとのこと。この工事を実施しても滞留状況は変わらず、底ドロを増加させないようにナノバブラーフロートを併用できれば幸いである。その効果を立証すべく立命館大と定期的に水質測定を実施中である。また瀬田漕艇クラブ殿からは電力や浮き草除去の協力も頂いている。

2. 酸素ナノバブラーによる運転開始と台風被害：溶存酸素を増やし、好気バクテリアを活性化させることによりヘドロを分解できるが、その定量的データを確保するため、柳崎棧橋にヘドロ層を確保すべく湖底まで届く仕切枠を設置した。その仕切枠内に空気中の酸素を90%に濃縮し、管状ナノバブラーで超微細気泡を発生させ、仕切枠内に昼夜連続投入する実験を8月27日から開始した。また測定しにくいヘドロ面の変化は、西氏の創意工夫によるヘドロ面計により、仕切枠の内と外のデータを1日1回自動的に採取し始めた。ここでも瀬田と同様立命館大と定期的に水質調査を継続。ところが9月16日早朝に数10年に1度の豪雨台風に見舞われ、想像以上の急激な水位上昇で仕切枠は写真のように完全に水没し、目下実験計画の見直し中。環境保全の難しさを実感している。なお瀬田のナノバブルフロートは大過なく運転可能である



・柳崎棧橋に設置している管状酸素ナノバブラー

・9月16日朝8時の実験現場で水位はまだ上昇中

文責 高木理事